

## 古着仕分け体験イベントの定期開催

SDGsのゴールとされている2030年まであと8年。その17の目標の一つに「つくる責任 つかう責任」というものがあります。私たちの身近なところでの取組み分野の一つと感じている方もおられるのではないでしょうか？

身近な衣類について、ファッション産業が与える環境負荷が、石油産業に次いで世界第2位に位置していることなどが報じられ、少しずつ衣類の与える環境負荷に目が向けられるようになってきました。一方、本会では32年前からこうした衣類を巡る環境負荷に目を向けて「古着を燃やさない社会づくり」を目指して活動を進めてきました。私たちの想いを共有する仲間が世界規模で増えてきたということになるでしょうか。

そうした仲間づくりをもっと進めようと、本会では定期的に古着仕分け体験会を開催しています。次回開催は、8月27日の予定です。本会のフェイスブックページで広報予定です。今から楽しみにしててください。



▲前回の古着仕分け体験イベントの様子▲

## 市内小中学校でのコットン栽培広がる

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトでは、今年度いわき市内の小中学校でコットン栽培に取り組んでもらおうと、積極的に働きかけを行ってきました。これは、いわきで育つ子供たちに東日本大震災について伝える機会の一つとして、震災を契機として始まったオーガニックコットン栽培を活用して欲しいと考えてのことです。また、自分たちの着ている衣服がどうして生まれるのかを体験してもらいたいという想いや、SDGsに関わり、環境にやさしい暮らしを考える機会にして欲しいという想いも含まれています。この働きかけに応え、今年度は小中学校8校が栽培に参加。昨年度の3校から大幅アップとなりました。各校を本会のコットンチームメンバーが巡回しながら、その時々に応じた農作業の指導を行い、児童生徒との交流を深めています。

この事業は、(社)ふくしまオーガニックコットンプロジェクトが主催する形で、いわき市「明日をひらく人づくり基金」の助成を受けて実施。本会では、コットン栽培の専門家であるコットンチームを講師として派遣し、この取組みを通年で支援することとなっています。



▲コットンの栽培指導を聞く小学生たち

義姉を亡くして①  
長期に肺がんを患っていた姉の死は覚悟していたとしてもいざこころなるとその無念さ悔しさ悲しさは表現しがたいものである。布団に潜ると家族に隠れて大声で泣き続けた。涙が枯れるとはこういうことなのかもしれない▼両親の死は遠い昔の事だから懐かしく思い出されても涙はこぼれない。数ヶ月前まで励まし合っていた姉だけに「何で...どうして...」という言葉が繰り返すばかりである▼主人だった私の兄は11年前に亡くなっていったから10年以上は一人で生きてきたことになる。花壇作りが趣味で庭にはいつも花が咲き乱れ、多くの友人に囲まれていた。遠く離れた6人の孫たちの成長は何よりの楽しみだった。時間の許すかぎりビールのお店を手伝い古着の仕分け作業をするなど活躍してくれた▼私は同じ市内に住んでいたから何時でも会えたし、何事も語り合えた。同じ年なのに体調の優れない私に「80才の坂が一番きつんだよ、この坂を越えれば元気になるから大丈夫」と励ましてくれた。今になって思えば自分に対する励ましの言葉でもあったのだ▼数カ月間治療のため入院を繰り返していたが、つい最近合致する抗がん剤が見つかったと希望を抱いていた矢先、転んでしまい大腿部を骨折。食欲も進まない劇痛に襲われた。以前だったら病院食が食べられないなら「食べたいものは何?何か一口でも食べなさいだめだよ、アイスクリームならどうかな」と一口でも食べさせたろうに。コロナ禍時代の入院生活はそんな事すら許されないのだ。側に居て励ましてあげられなかったことが恨めしくてならない▼私が仙台の病院を訪れたのは個室に移った日。亡くなる半日前である。私の来るのを嫁から聞かされたのだと思は、確かに私を待っていてくれたのだと思は、髪が生え際は白くなっていたが肌は艶やかで、つけ睫毛をしたのかと思うほど眼はパッチリ、鼻筋が通る思わず「昭子ちゃん美人だね。ほらわたし鼻は低いし眼は細いし羨ましいいな」と言う視線が合い、瞬間だがニッコリ笑った。その笑顔が今も忘れられない。言葉が飛つてない替わりに「うっう」の返事で答えてくれた。人生はみな生きる時間の長短こそあれ荘厳とも言える死をこうして迎えるのだと呟いた私である。(甘)

## 昨年度のコットン栽培の報告会開催

6月11日、広野町の旧幼稚園の建物を改修して生まれた「ひろの未来館」を配信拠点として、2021年度のふくしまオーガニックコットンプロジェクトの報告会がオンラインとリアル会場を結ぶハイブリット方式で開催されました。当日、会場に集まったのは12名。中には、遠藤智広野町長の姿もありました。オンライン上では54名の参加があり、にぎやかな会となりました。

東京都北区にある障がい者施設「綾瀬あかしあ園」からは、今年度からコットン栽培を行っている担当者の方が、「コットンを栽培し始めて分からないことがあるので、先輩の皆さんに教えて欲しいです!」と初参加して下さいました。コットン栽培を重ねている先輩農家さんからは、質問に答えて色々アドバイスが飛び出し、プロジェクトの広がりを感じられる会となりました。この報告会は、地球環境基金の助成事業として実施されています。



▲コットンプロジェクト報告会の様子

## 地域のママたちが学びの場づくり!

地域で子育て中のママたちが、未来世代のために環境について学ぶミニセミナーを企画しています。「気候危機?の実態と地球と仲良くする生き方 環境活動家 谷口たかひささんお話し会」(主催:ひらめきの畑)がそれです。

8月17日(水) 10:30~12:30

LATOV 6F 産業創造館企画展示ホール

講師の谷口さんは、全国各地の大手企業や教育機関などで年間100回以上の講演を行うドイツ在住の環境活動家&実業家です。2021年国連総会(UNGA)で司会&スピーチを行った実績を持ちます。また、ドイツ商工会議所SDGs Award審査員でもあります。『地球を守ろう』代表。



参加申込はQRコードから。応援よろしくお祈りします。



私たちの活動を会員として支えて下さい。会費納入をよろしくお祈り致します。

活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さる方) 2,000円/年

賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替(02110-0-24908)でお送り下さい。